# 第１学年　国語科学習指導案

紫波町立紫波第二中学校

日　時　平成１８年１０月２日（月）　５校時
学　級　１年２組(男子１５名　女子１８名　計３３名)
授業者　村上　徳子

１　単　元　　４　古典との出会い（　教材名　「蓬莱の玉の枝ー竹取物語からー」　）

２　単元について

（１）教材について

本単元は、中学校で初めての古典単元である。「古典の文章に出会い、昔の人のものの見方や考え方に触れ、現代とのつながりを考える」ことを主たるねらいとしており、和歌（いろは歌）・物語・漢文から構成されている。

『竹取物語』は、紫式部が「源氏物語」の中で「物語の祖」と記した現存する日本最古の物語であり、千年以上もの時を超え、現代にも読み継がれている。そして、これは、竹取の翁が竹の中から見つけたかぐや姫の成長と、帝や五人の貴公子の求婚と失敗、かぐや姫の月への帰還がおもなストーリーであるが、さまざまな登場人物を通して、美しいものへの憧れや未知の世界への好奇心、人間の持つ欲望や当時の人々のものの見方や考え方が伝わってくる作品である。

本教材「蓬莱の玉の枝」には、『竹取物語』の中の冒頭の部分と、くらもちの皇子の冒険談、かぐや姫昇天後の最後の部分が原文で載せられ、その間に簡単な要約を掲げて作品の全体像がつかめるように配置されている。音読を通して原文のリズミカルな文体に慣れさせ、愛と冒険を軸にしたドラマチックな展開と登場人物の喜びや悲しみなどの心情にふれさせることによって、古典文学に興味と親しみを持たせることができる教材であると考えられる。

系統的には、２年第４単元「古典に親しむ」で、「昔の人のものの見方や考え方にふれ、古典に親しむ」につながり、さらに３年第４単元「古典を楽しむ」の「昔の人の思いや考え方をとらえ、古典を楽しむ」へとつながっていく。

（２）生徒の実態

４月に実施した国語の意識調査では、国語が「とても好き・好きな方」と答えた生徒が５４％で、その主な理由は「文章を読んだり調べたりするのが好きだから」という答えが多かった。一方「国語が好きでない」理由としては、「文章を読むのが苦手」をあげる生徒が多く、文章を読むことについて興味関心が大きく分かれていることがうかがわれた。

生徒たちは、授業には意欲的で質問も発言も多い。これまでに詩や物語、説明文などの学習を行ってきたが、いつも積極的に自分の考えを発表したり、一つの言葉や表現からイメージを膨らませて詩や文章を読み取っていこうとする姿勢がみえる。ただ古典に関しては、予備知識がほとんどなく、文語文の読みに対する抵抗も強いことが予想される。そこで、音読を多く取り入れて、リズミカルな文体に慣れさせ、古典の文章に興味をもたせていきたい。

（３）指導の構想

国語科における思考力・判断力とは、国語教室における学習活動のすべてに関わっているものであり、「理解する力」や「表現する力」とも密接な関わりがある。そこで、本校では、生徒の実態に即して、「読むこと」の指導において「理解する力」を高めることを重点に指導を行うことにした。

指導にあたっては、まず一人一人に作品を読んで「強く心を動かされたこと」をしっかりとおさえさせ、次にその根拠を明確にもって相互に交流させ、自分の考え方や感じ方を広げたり深めたりさせたいと考える。また、古典入門の教材であることから、できるだけ音読の活動を取り入れて読みの抵抗を少なくし、内容を読み取らせていきたい。

３　教材の目標

（１）進んで「竹取物語」を読み、古人の生き方や考え方に関心をもとうとする。（関心・意欲・態度）
（２）古文や現代語訳を読んで、物語のあらすじをつかみ、内容をとらえる。（読むこと）
（３）古文を読んで、当時の人々のものの見方や考え方をとらえ、自分と比較し、ものの見方や考え方を広げようとする。（読むこと）
（４）古文の仮名遣いや言葉遣い、語句に注意しながら文語文を読む。（言語事項）

４　指導計画

（１）歴史的仮名遣いや古典特有の表現に注目しながら音読し、学習の見通しを立てる。……１時間
（２）古語と現代語の違いをとらえるとともに、「竹取物語」のあらすじをとらえる。…… １時間
（３）登場人物について考え、古人のものの見方や考え方と自分のそれを重ね、比較して考えをまとめる。
３時間（本時２／３）
（４）学習を振り返り、古典にふれる意味を考える。…… １時間

５　本時の目標

くらもちの皇子の行動から、くらもちの皇子の人物像をとらえ、それについての自分の考えをもとう。

６　本時の評価規準

| | | 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|---|---|---|---|---|
| 評価規準 | | 登場人物の行動をとらえようと、意欲的に古文や現代語訳を読んでいる。 | 古文や現代語訳を読んで内容をとらえ、登場人物の行動に自分を重ね合わせて考えている。 | 歴史的仮名遣いや古文特有の表現やリズムを正しくとらえて音読している。 |
| 具体の評価規準 | おおむね満足Ｂ | くらもちの皇子の人物像をつかもうと、何度も古文や現代語訳を読んでいる。 | 古文や現代語訳を読んで、くらもちの皇子の言動のあらましをとらえている。 | 歴史的仮名遣いや古文の言い回しに留意しながら音読している。 |
| | 十分満足Ａ | くらもちの皇子の冒険談や行動に関心をもち、意欲的に古文や現代語訳を読み、それについての自分の考えをまとめようとしている。 | くらもちの皇子の言動などをイメージ豊かに思い描きながら、くらもちの皇子の人物像をとらえ、それに対する自分の考えをもっている。 | 歴史的仮名遣いや古文の言い回しを正しくとらえ、敬語表現に留意しながら、古文のリズムをつかんで音読している。 |
| | Ｃへの支援 | ・歴史的仮名遣いの基本型を確認させる。<br>・登場人物、時、場面などを１つ１つ確認させながら、くらもちの皇子の冒険談の内容や皇子の行動をつかませる。 | | |

７　本時の展開

◎　本時の目標の評価場面　　☆　聞き方ＬＶ　　※　学力

| | 学習過程 | 生徒の活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|---|
| 導入五分 | ０　既習事項の確認<br><br>１ 学習課題の把握 | ０　既習事項を想起する<br><br>１ 「くらもちの皇子」の人物像をとらえることを確認する | ・学習プリントに記入させる。<br>※ 学ぼうとする力<br>（関心・意欲・態度） |
| | くらもちの皇子の人物像をとらえ、自分の考えをまとめよう | | |
| 展開四十分 | ２ 課題解決の予想 | ２ 課題について予想を立てる<br>（１）くらもちの皇子の人物像をとらえる手がかりを考える。<br>【予想される生徒の反応】<br>・かぐや姫の難題への取り組み方<br>・くらもちの皇子の行動　　他 | ・予想した手がかりが文章中のどの部分にあるかを確認させる。<br><br>※ 学ぶための力（思考力） |
| | ３ 課題の追求 | ３<br>（１）学習場面の現代語訳と原文を音読する。<br><br>（２） 一人読みをして、課題解決の手がかりとなる表現を見つける。<br><br>（３）課題について班で意見交流をし、くらもちの皇子の人物像をまとめる。<br>（４）班ごとに、くらもちの皇子の人物像について発表する。<br>☆ＬＶ７ | ※ 学ぶための力（思考力）<br>・２で予想した手がかりに留意して読ませる。<br>◎ 言語についての知識・理解・技能<br><br>作業の遅い生徒への支援をする。<br>（現代語訳からおさえさせる）<br>◎ 国語への関心・意欲・態度<br><br>・どのような理由で、人物像をまとめたかを説明させる。 |
| | ４ 課題の解決 | ４<br>（１）他の班の発表を聞いて、くらもちの皇子の人物像を、文章にまとめる。<br><br>（２）くらもちの皇子について、自分の考えを書く。 | ・発表の中で共通している語句をキーワードとして用いてまとめさせる。<br><br>・自分や現代人と比較しながら書かせる。<br>◎ 読む能力 |
| 終結五分 | ５ まとめと自己評価 | ５ 今日の授業を振り返り、自分の取り組みの反省や感想をまとめる。 | ・書く時間を設定する。 |